

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 2 年 6 月 4 日現在

機関番号：22604  
研究種目：基盤研究(C) (一般)  
研究期間：2017～2019  
課題番号：17K12301  
研究課題名(和文) ファミリーパートナーシップモデルに基づく産前産後母子支援システムの実践と評価

研究課題名(英文) Evaluation of a Mother and Child Support System using the Antenatal/Postnatal Promotional Guide based on the Family Partnership Model

## 研究代表者

園部 真美 (Sonobe, Mami)

首都大学東京・人間健康科学研究科・准教授

研究者番号：70347821

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：ファミリーパートナーシップモデル(FPM)に基づく産前産後プロモショナルガイド(A/P PG)システムを用いて、妊娠期1回、産後2回の同一助産師による親子への訪問支援を実施した。通常の訪問支援の対象者をコントロール群(n=9)、産前産後PGのトレーニングを受けた助産師による訪問支援対象者を介入群(n=9)として比較した。介入群で訪問前後で心の健康度が有意に増加し、妊娠中の胎児への愛着が両群とも増加した。産後においては、介入群で心の健康度・疲労度が2回目訪問で高くなった。両群とも産後1回目よりも2回目後の方が愛着が高かった。両群において、1回目から2回目へと親ストレスが減少する傾向がみられた。

## 研究成果の学術的意義や社会的意義

産前産後プロモショナルガイドは妊娠期から産後の一貫した親子支援に寄与する可能性がある。赤ちゃんと両親の健康、夫婦の関係性、親子の相互作用、親としての役割と子どもの発達、家族とソーシャルサポートが土台となっている。個人や家族の強み重視の、目的志向型アプローチで家族に寄り添うパートナーシップ型の支援を特徴とする新しいモデルであり、その有効性を実証するのは本研究が初めてであった。本ガイドの支援効果は明確にはならなかったものの、産前産後に同一助産師が訪問支援を行うことによる効果がみられたことから、親子に関わる看護職がトレーニングを受け、産前産後のケアに生かし、普及につなげることが期待できる。

研究成果の概要(英文)：The Antenatal/Postnatal Promotional Guide (A/P PG) is based on the Family Partnership Model (FPM) developed by Day. To clarify the effectiveness of A/P PG training, midwives trained to use the Guide were allocated to the intervention group, and untrained midwives were allocated to the control group. We conducted home-visiting once during pregnancy and twice after birth, and evaluated its effectiveness. Well-being in the intervention group, and maternal attachment in both groups increased significantly between visits before and after visiting during pregnancy. Maternal attachment in both groups increased significantly from first to second visits after birth. Child domain stress tended to decrease from first visits to second in both groups. This study fails to demonstrate effectiveness of the A/P PG intervention, but indicates that visiting support affected mothers in both groups.

研究分野：母子看護学

キーワード：ファミリーパートナーシップモデル 産前産後プロモショナルガイド 家庭訪問支援 親子の関係性 助産師

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

- (1) 少子化、晩産化、核家族化が進む中、育児の孤立化、虐待の予防などが早急の課題となっている。近年においては、妊娠期からの切れ目ない支援を進めていくための子育て世代包括支援事業や産前・産後サポート事業が全国展開されるようになった。しかし、依然として妊娠期は産科出産医療機関における健康管理、産後は各自治体により新生児訪問指導、乳児家庭全戸訪問事業(こんにちは赤ちゃん事業)が行われ、育児に関する不安や悩みの傾聴等が保健師、助産師によって実施されているが、妊娠期の出産施設と産後のサポートが分断されており、ケアの継続が行われにくい現状がある。また、妊娠中の家庭訪問は一部の心理社会的ハイリスク家庭に限定されており、一般的な妊婦全体を対象とした支援は行われていないのが現状である。産後うつや虐待(マルトリートメント)などのハイリスク母子であっても、妊娠期に十分な支援を受けていないことが多く、過去の葛藤や生い立ちによる心理社会的リスクが解決されないまま出産・子育てをすることになる。このように、妊娠期からの切れ目ない支援のためには、多くの課題が残されている。
- (2) ファミリーパートナーシップモデルを基本とした産前産後プロモーションガイド(AN/PNPG)(Day, 2012a, b)は、生後早期の乳児の発達、母親と父親が親になることへの移行、支援者と親がより良い情報に基づいて、乳児や家族のニーズを決定することを促進するガイドシステムである。発達科学と研究成果に基づいて開発されイギリスではすべての保健師がこの講習を受けるまでになっており、最近では助産師バージョンも開発され、その有用性が他の国々からも注目を浴びている。日本においては構造化され、汎用性の高いマニュアル化されたアプローチシステムは皆無であり、産前産後の支援を担当する専門家から強く期待されている。  
そこで日本で初めての産後プロモーションガイドを用いて、パイロットスタディとして助産師による産後の家庭訪問支援を行った。その結果、プロモーションガイド訪問群と通常訪問群とに心の健康やソーシャルサポートに有意な違いはみられなかったものの、産前からの訪問があったほうがよいという対象者の意見が多く聞かれた(Kimura, Sonobe, Endo, Ikeda, Usui *et al.*, 2017; Sonobe, Kimura, Endo, Ikeda, Usui *et al.*, 2017; Sonobe, Kimura & Hirose, 2016)。
- (3) 研究代表者らは、ロンドンのKings CollegeにあるMichael Rutter Center長であるCrispin Day博士による訓練を受講し、ファシリテーター資格を取得してから日本の実状に合わせた日本語版(Day, 2015; Day, 2016)を完成させた。2015年には助産師を対象に講習会を実施し、資格を取得した助産師による産後の支援を行った。2015年には産後プロモーションガイド日本語版しか出来上がっていなかったが、2016年に産前プロモーションガイド日本語版が完成し、本来の目的である産前産後の継続的支援に用いることの着想に至った。本研究は、産前産後同じ助産師による訪問支援を実施し、その効果を検証するものである。効果が検証されれば今後、保健師・助産師・看護師がトレーニングを受け、産前産後のケアに生かし、日本における普及につながる事が期待される。

### 2. 研究の目的

ファミリーパートナーシップモデルによる産前産後母子支援講習会を受講した助産師が、妊娠期と産後1か月に家庭訪問支援を実施することによる効果を明らかにすることが本研究の目的である。

### 3. 研究の方法

- (1) 講習会の開催：ファミリーパートナーシップモデル(FPM)による産前産後育児支援講習会。対象者：乳児と家族に対して支援を提供している看護職、保育士等。場所：首都大学東京荒川キャンパス。日時：2017年6月3日、7月15日。  
講習会ファシリテーター：廣瀬たいこ(東京医科歯科大学大学院)、園部真美(首都大学東京)他
- (2) 家庭訪問実施助産師：産前産後プロモーションガイド講習会受講助産師をPG介入群(介入群)、PG講習会未受講助産師を通常支援群(コントロール群)の担当とした。
- (3) 研究対象者：東京都内A区実施の両親学級に参加した初産の妊婦、および東京都内Bクリニックに通院中の初産妊婦に対して、文書を用いて研究の説明を実施し、研究協力の意思表示を後に回答してもらい同意の得られた人を対象とした。
- (4) 家庭訪問支援：介入群、コントロール群ともに妊娠中1回、産後2~8週に1回、産後9~12週頃に1回、計3回の助産師による家庭訪問支援を実施する。介入群は産前産後プロモーションガイドに基づきトピックカードを用いて母親からの質問に応じて母子とその家族への支援を行う。コントロール群も母親からの質問に応じて母子とその家族への支援を行う。質問紙調査は、妊娠中訪問前、妊娠中訪問後、産後1回目訪問後、産後2回目訪問後の計4回実施した。
- (5) 質問紙調査の内容  
妊娠中訪問前：ソーシャルサポートスケール、SUBI(主観的幸福感)、CES-D(抑うつ尺度)、PAI(Prenatal Attachment Inventory)  
妊娠中訪問後： に母親の家庭訪問に対する評価用紙を追加した。

産後1回目訪問後：ソーシャルサポートスケール，SUBI（主観的幸福感），CES-D（抑うつ尺度），MAI（Maternal Attachment Inventory），育児ストレスインデックスショートフォーム（PSI-SF），母親の家庭訪問に対する評価用紙  
産後産後2回目訪問後：と同様の質問紙調査を実施。

- (6) 分析方法：質問紙調査の結果を分散分析(ANOVA)により2群それぞれを分析し，比較検討した。

#### 4. 研究成果

- (1) 23名の初産妊婦を研究対象者とした。介入群は12名，コントロール群は11名であった。介入群へ訪問する講習会受講助産師は5名，コントロール群へ通常訪問支援を行う助産師は5名であり，1人の対象者に対して同じ助産師が合計3回訪問支援を実施した。

- (2) 訪問による変化

<妊娠中の訪問前後> 介入群において妊娠中の訪問により主観的幸福感の下位尺度である心の健康度が増加したが，コントロール群では変化がなかった。両群とも，訪問前に比べて訪問後に胎児に対する愛着が増加した。

<産後の1回目訪問後から2回目訪問後の変化> 介入群において2回目訪問後の方が主観的幸福感の下位尺度である心の健康度が高かったが，コントロール群においては変化がみられなかった。両群とも訪問1回目後より2回目後の方が児に対する愛着が高かった。1回目から2回目訪問後にかけて，育児ストレスの下位尺度である子どもの側面ストレスが減少した。1回目後も2回目後も，介入群の方が親の側面ストレスが低かった。

<初回訪問と最終回の訪問の変化>

妊娠中の初回訪問に比べ産後2回目訪問後で，介入群の心の健康度が向上したが，コントロール群では変化がなかった。

- (3) 家庭訪問評価

「自分が尊重されていると感じた」が妊娠中訪問後から出産後1・2回目訪問後で増加した。両群の群間差はみられなかった。「自分の話したかったことを話すことができた」，「助産師から得た情報は役に立った」は，妊娠中訪問後から出産後1回目訪問後で増加した。両群の群間差はみられなかった。

<引用文献>

- Day C. (2012a). *Antenatal promotional guide, guidance notes and strengths and needs summary. 2nd ed.* . London: King's College London/South London and Maudsley NHS Foundation Trust.
- Day C. (2012b). *Postnatal promotional guide and guidance notes and strengths and needs summary. 2nd ed.* London: King's College London/South London and Maudsley NHS Foundation Trust.
- Day C. 三国久美訳. (2015). *産後プロモーションガイド：ガイダンスノート（日本語版）*. 東京：廣瀬たい子.
- Day C. 著. 大久保功子他訳. (2016). *産前プロモーションガイド：ガイダンスノート（日本語版）*. 東京：廣瀬たい子.
- Kimura C., Sonobe M., Endo Y., Ikeda M., Usui M., Takasu J. *et al.* (2017). Feasibility study of a support program for mothers and children using postnatal promotional guide (PPG) based home visits: Analysis of qualitative data on program evaluations by mothers and midwives. *13th International Family Nursing Conference, June.*
- Sonobe M., Kimura C., Endo Y., Ikeda M., Usui M., Takasu J. *et al.* (2017). Evaluation of a home-visit mother/child support program using the postnatal promotional guide. *13th International Family Nursing Conference, June.*
- Sonobe M., Kimura C. & Hirose T. (2016). Practice and evaluation of a home-visit mother/child support program using the postnatal promotional guide. *第2回日本混合研究法学会年次大会.*

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 1件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 園部真美	4. 巻 40 (11)
2. 論文標題 乳幼児看護学ははじめの一步（第22回） 妊娠期から始まる育児支援	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 小児看護	6. 最初と最後の頁 1462 - 1465
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Sonobe Mami, Usui Masami, Hirose Taiko	4. 巻 296
2. 論文標題 Early Intervention to Support Parenting during Pregnancy: Improving Parent-Child Interactions	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 International Journal of Nursing & Clinical Practices	6. 最初と最後の頁 1-5
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） <a href="https://doi.org/10.15344/2394-4978/2018/296">https://doi.org/10.15344/2394-4978/2018/296</a>	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計5件（うち招待講演 0件/うち国際学会 4件）

1. 発表者名 Mami Sonobe, Chisato Kimura, Yuko Endo, Mayumi Ikeda, Masami Usui, Junko Takasu, Mari Okamoto, Taiko Hirose
2. 発表標題 Evaluation of a Home-visit Mother/Child Support Program Using the Postnatal Promotional Guide
3. 学会等名 13th International Family Nursing Conference（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Chisato Kimura, Mami Sonobe, Yuko Endo, Masami Usui, Mayumi Ikeda, Junko Takasu, Mari Okamoto, Taiko Hirose
2. 発表標題 Feasibility study of a support program for mothers and children using Postnatal Promotional Guide (PPG) based home visits: Analysis of qualitative data on program evaluations by mothers and midwives
3. 学会等名 13th International Family Nursing Conference（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Chisato Kimura, Mami Sonobe, Mayumi Ikeda, Takahide Omori, Rina Nakaizumi
2. 発表標題 Falling through the cracks: Insufficiencies in case and support for single mothers
3. 学会等名 The 5th International Conference on Advancing the Life Sciences and Public Health Awareness (ALPHA 2019) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 木村千里, 池田真弓, 園部真美
2. 発表標題 シングルマザーの妊娠期～育児期の体験：親への移行に影響する要因の検討
3. 学会等名 日本家族看護学会 第26回学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Mami Sonobe, Chisato Kimura, Masami Usui, Takahide Omori
2. 発表標題 Evaluation of a Mother and Child Support System using the Antenatal/Postnatal Promotional Guide
3. 学会等名 World Association for Infant Mental Health (WAIMH)2020 17th World Congress (国際学会)
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

ファミリーパートナーシップモデル (FPM) による産前産後育児支援講習会開催, 首都大学東京荒川キャンパス, 2017年6月, 7月
---

## 6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	木村 千里  (Kimura Chisato)  (60520765)	東京都立大学・人間健康科学研究科・准教授    (22604)	
研究分担者	臼井 雅美  (Usui Masami)  (50349776)	東邦大学・健康科学部・教授    (32661)	
研究分担者	大森 貴秀  (Omori Takahide)  (60276392)	慶應義塾大学・文学部(三田)・助教    (32612)	